

令和 4 年 2022 年春、金沢大学 核医学診療科の新しい医局長ならびに病棟医長の就任挨拶をご紹介します。

医局長就任挨拶

若林 大志

2022 年度から医局長を拝命しました若林です。

2013 年度から医局長をされていた萱野先生の後任となりました。

1 年ほど医局長任務を代理で行った経験もあり、微力ながら職務を全うしていく所存です。

最近日本核医学の分野では治療で大きな変化があり、ルタテラ、ライアットの保険診療がはじまりました。

今後もいくつもの治療薬剤候補がありますので、核医学治療が患者様に届くよう医局員一丸となって取り組んでいければと存じます。

また、診療に限らず大学では核医学に興味をもってくれるような教育、さまざまな研究に携われる環境が作れば良いと考えています。

核医学のあり方が変化する折でもあり、この大任はことその他重く感じられますが、医局員、核友会会員の皆様方のご支援をいただいて責をはたしたいと存じます。今後ともご協力とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

病棟医長就任のご挨拶および抱負

廣正 智

このたび若林大志病棟医長の後任として 2022 年度より病棟医長に就任いたしました。浅学非才ではありますが、全力を挙げて職務に邁進する所存でありますので、皆様方のご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

ご承知のように、昨今国内における核医学治療は目ざましい発展を遂げています。2021 年 9 月には神経内分泌腫瘍に対する ^{177}Lu -PRRT 治療、11 月には治癒切除不能な褐色細胞腫・パラガングリオーマに対する ^{131}I -MIBG 治療がそれぞれ保険適用となりました。これに加えて、金沢大学では医師主導治験の元、国内で唯一の小児神経芽腫に対する大量 MIBG 治療を行っています。さらに執筆時点においていくつかの治験にも参加しており、私が入局した 2015 年のころとは病棟の様子は一変しています。このように多種多様な治療が導入される中で国内における核医学治療病室の位置付けはますます重要なものとなっています。

そういった中で今回病棟医長に任命されたことはそれ相応の重圧もありますが、それと同時にやりがいも非常に感じています。以前よりも大きく変化する病棟業務において、医師や看護師をはじめスタッフ一同が心地よい環境で働けるよう、そして患者一人一人の満足度を追及できるように努める所存です。そして、金沢大学核医学診療科が今後も国内の核医学治療を先導する立場であり続けられるよう精進して参ります。それでは改めて今後の皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げます、就任のご挨拶といたします。